

[解説]

環境影響評価の項目の選定は、環境を構成する要素（環境要素）を法令等による規制又は目標の有無及び環境に及ぼすおそれがある影響の重大性を考慮して適切に区分し、当該区分された環境要素ごとに行うことを示したものである。

- 5 第2項の規定による項目の削除は、次に掲げる項目について行うものとする。
- (1) 標準項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかである場合における当該標準項目
  - (2) 対象事業が実施されるべき区域又はその周囲に、標準項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかである場合における当該標準項目
- 6 第2項の規定による項目の追加は、次に掲げる項目について行うものとする。
- (1) 事業特性が標準項目以外の項目（以下「標準外項目」という。）に関する環境要素に係る相当程度の環境影響を及ぼすおそれがあるものである場合における当該標準外項目
  - (2) 対象事業が実施されるべき区域又はその周囲に、次に掲げる地域その他の対象が存在し、かつ、事業特性が次のア、イ又はウに規定する標準外項目に関する環境要素に係る環境影響を及ぼすおそれがあるものである場合における当該標準外項目
    - ア 標準外項目に関する環境要素に係る環境影響を受けやすい地域その他の対象
    - イ 標準外項目に関する環境要素に係る環境の保全を目的として法令等により指定された地域その他の対象
    - ウ 標準外項目に関する環境要素に係る環境が既に著しく悪化し、又は著しく悪化するおそれがある地域
- 7 第2項の規定による項目の削除及び追加は、前条の規定により把握した事業特性及び地域特性に関する情報を踏まえ、必要に応じ専門家その他の環境影響に関する知見を有する者の助言を受けて行うものとする。

[解説]

環境影響評価の対象とする項目は、各事業ごとに技術指針で定められた標準項目に、事業特性及び地域特性により項目の追加及び削除を行うことによって選定する。

(1) 標準項目

技術指針で定められた標準項目は、対象事業の種類ごとの一般的な事業内容を想定して実施すべき内容を定めたものであり、項目選定の参考として活用される、いわばスタートラインとして設けられたものである。よって、事業の内容や地域特性が変わることにより、常に項目の追加・削除の必要が生じることに留意する。

また、方法書の手続の制度が設けられた目的を考えれば、事業特性や地域特性に十分踏み込まずに単に標準項目を選定項目とした方法書は、最も望ましくない方法書内容の一つであるといえる。

なお、標準項目を選定項目として選んだ場合においても、その理由を明らかにしておくことが望ましい。

## (2) 環境影響評価の項目の選定

環境影響評価の対象となる一定以上の規模の事業においては、その事業特性や地域特性が全く同一であることはあり得ない。したがって、環境影響評価項目の選定のプロセスは、標準項目の如何にかかわらず、全ての事業について必要となる。

環境影響評価の項目の選定は、概ね以下のようなプロセスに従って行う。

### ① 環境影響を及ぼすおそれがある要因（以下「影響要因」）の抽出

対象事業の事業特性から、事業における環境影響要因を抽出する。影響要因の抽出は、各事業ごとに規定された標準的な影響要因（標準項目の表の上欄に掲げられた影響要因の細区分）に対し、事業特性に応じて要因の削除及び追加を行うことにより実施できるが、標準項目を参照せずに影響要因を抽出し、抽出された影響要因を標準項目等の区分に従って分類し、要因の削除及び追加を行うこともできる。

### ② 環境要素の抽出

事業実施区域及びその周辺の地域特性から、環境の変化による影響を受けるおそれのある環境要素を抽出する。環境要素の抽出は、各事業ごとに規定された標準的な環境要素（標準項目の表の左欄に掲げられた環境要素の細区分）に対し、地域特性に応じて要素の削除及び追加を行うことによる。なお、この段階で影響要因と環境要素の関係を厳密に検討する必要はないが、影響要因に全く関係しない環境要素を選定したり、あるいは、影響要因があるにもかかわらず関連する環境要素が選定されないなどの事態が生じないように、影響要因がある程度考慮しつつ環境要素を検討することが必要である。

### ③ 項目の検討

影響要因と環境要素の関係から、環境影響評価の対象となる項目を選定する。この際に、標準項目の表において空欄となっている部分（標準項目の表に記載された影響要因と環境要素においては関連しないとされている部分）についても、特に影響要因の内容が若干異なることにより、対象とすべき必要が生じる可能性があることに留意する。

### ④ 不必要な欄の削除

標準項目以外の項目のうち、項目として全く選定されなかった影響要因及び環境要素を表から削除し、環境影響評価項目選定のマトリックスを完成する。

### ⑤ インパクトフローによるチェック

マトリックスによる影響要因と環境要素の関連付けは、両者の関係を漏れなく把握することに適している。一方、環境要素相互の関係や影響要因と地域特性等の他の要因の把握や、二次的に生じる環境影響の把握には、インパ